



さぎ ^{みや} 鷺の宮卓話

タオルと手拭い

研究所長 太田敬雄

18歳でアメリカに留学したとき、スーツケース一個で出かけた私はスーツの隅っこに手拭いを入れていた。あの時、辞書を持っていた事は覚えているが、他に持参した物としては日本手拭いくらいしか覚えていない。今でも、海外に行く時には私は必ず手拭いを持参するが、使いみちも多く、結構便利なものである。

今回、この手拭いについて一寸触れて見ようと思つて調べて見ると、これが結構面白い。元々は手拭いは麻や絹で作られていたらしいが、江戸時代になって綿が大量に栽培されるようになり、いわゆる日本手拭いが広まったようだ。反物から着物を作る時に出る端切れから作られたようで、「手拭の端が縫われていないのは、清潔を保つ為水切れをよくし早く乾くようにと云う工夫である」とウィキペディアに記されていた。

用途も広く、今日のタオルのように使うだけではなく、昔から神事で使われたり、あるいは帽子変わりの被り物、暖簾、前掛け、装身具などと実に便利に使われていたようだ。

私自身、若い頃には洗髪後の髪の設定用に頭に巻いていた。留学時にアメリカに持参した日本手拭いは、もっぱら髪の設定のためだけに用いていたように記憶している。

今日、日本手拭いが一般にどのように使われているか調べて見ると食器を拭く布巾、ハンカチがわり、タオルがわり、アイロン掛けのあて布、汗ふき、防寒、枕カバー、包帯…等々、綿100パーセントである事で使う人には結構重宝されているようだ。

明治の始まりと共にタオルが普及し手拭いは廃れたかのように思われているふしがあるが、実は日本で一般的に使われている「タオル」は「タオル地の手拭い」で有る事が多い。元来、タオルにはハンカチ大のハンドタオル、身体を

洗うためのボディタオル、風呂上りなどに使うバスタオルなどがある。しかしバスタオル以外はいまだに日本では余り活用されていないのではないだろうか。

日本にタオルが入って来た時、私たちは素材としてのタオル地を取り入れたが、その素材を活用して手拭いにしてしまったのだ。手拭いにする段階で元来のタオルより薄手の、手拭いサイズのタオルが出来た。そうすることで以前からの手拭いを使う習慣を捨てることなく外来のタオルを活かしていった。今日、私たちはそれを「タオル」として活用している。けれども日本以外でこの日本式タオルを見かけたことがない。

その日本式タオルが欲しくて、最初に書いたように私は今でも必ず海外旅行にタオルの手拭いを持って行くのだ。持たずに海外に行って不便した人も多いのではないだろうか。

そこに私は日本文化の一つの特徴を見る。私たちは「上手に」海外の物を受け入れ、それを日本的に変えて日本人の生活の中で活用する。これは「物」に限った話ではない。例えばクリスマスやバレンタインデーのような海外の文化や習慣も私たちの文化の中にすんなりと受け入れている。しかし、実は全て「日本化」して受け入れ、それが本来のものとは異なる事は気にもしないどころか、違うと言う事に気付いていないことも多い。

そのことの善し悪しを問題にする必要は無い。しかし外国から来た物を受け入れる時には、この日本的受け入れ方が問題になる。私たちに外国の人を受け入れる気持ちは十分あるが、彼らに「日本化された外国人」であることを無意識の内に求めている事が多い。そして日本化されていない外国的な考え方、生活様式、価値観に触れるとそれを拒否することが多いのだ。

それでは真の意味で異なる文化を受け入れたことにはならない。本当の多文化受容は自分の在り方と異なる者の在り方を対等なものとして受け入れ、その上で共存・共栄の道を探ることなのだ。その出来る成熟した社会となる日はいつ実現するのだろう。その日の到来を信じて研究所の活動を続けたい。

留学生との多文化交流inぐんま

大勢の力で大成功！

2010年を締めくくる「留学生との多文化交流 in ぐんま」は12月25日から28日までの三泊四日を共に過ごした留学生とほぼ同数の日本人の若者達。「こんなにも短い時間に、こんなにも親しくなれるのか！」と企画者も驚かされる始末だったが、それも決して偶然の出来事ではありませんでした。

留学生の中心となってくれたウィラスティ（インドネシア：山形大学）は過去の「多文化交流 in マラン」の経験と研究所の「インドネシアからの招聘生」として研究所の実施する「多文化交流」のスピリットを熟知して友人を誘って参加してくれていた。彼女の声掛けに応じての参加者は、国と地域ではインドネシア、タイ、中国、ベトナム、台湾、ミャンマー、韓国からの留学生。大学では、山形大学、筑波大学、東京外国語大学、群馬大学、日本電子専門学校、茨城大学、東北文教大学、釜山外国語大学から。

日本人は高崎経済大学、日本大学、群馬大学、東京外国語大学、前橋東高等学校。それに過去の「多文化交流」経験者の群馬県立女子大学OG、東洋大学OB、高崎経済大学OB。初めての参加者に混ざって過去の「多文化交流」を肌で体験してきた参加者の存在が貴重でした。

まとめ役としては研究所の関千景さん、2002年の多文化交流の荒井美幸さん。餅つきの新井隆さん、車出しの森泉宏昭さん、伊藤成さんの存在も大きかった。

さらに、今回は安中市、安中市教育委員会、上毛新聞社、エフエム群馬に後援もしていただき、ラジオで、新聞で取り上げていただき、群馬テレビのニュースにも取り上げていただいたことも大きな励ましとなりました。



何の指示も無い「自由時間」。若者達は自由に整然と豊かな交流を続けた初日の夜。企画者の「いきなり自由にして大丈夫かな」の思いを吹き飛ばしてくれた一瞬でした。



安中市の会場「学習の森」に集まった若者達 12.28.

しかし、何よりも大きな力は年末の忙しい時期に快くホームステイを引き受けて下さった方々のご協力があります。マナパル生家族、新島学園女子短期大学関係の方、倫理法人会の方、研究所の会員、その他色々な方からご紹介いただいた方々に一方ならぬお世話になりました。安中市の伊藤成さん、丸山輝彦さん、千葉浩太郎さん、平尾綾子さん、内田浩良さん、川合信さん、高田ます子さん、小川碧如さん、新井隆さん。「まなばるXD」の土地・建物を提供して下さっている株式会社LUC社長の内田光彦ご家族。高崎市では伊藤清さん、石井智美さん、高橋寛さん、松田英里さん、小川博敬さん。

イスラム教徒の戒律も考えながらの食事作りボランティアを引き受けて下さったのは木暮正子さん、関根君子さん、森泉婦久寿さん、金井美由紀さん、狩野真由美さん、太田玲子さん。中には野菜など引っ提げて馳せ参じて下さった方も！

ご協力くださった皆さま、研究所会員の皆様。皆様のお陰をもちましてプログラムを大成功の内に終える事が出来ました！

まなばるの子ども達との交流の後、入口の前で大撮影大会



まみさんのミクシー日記 2011年1月5日

「多文化交流 in ぐんま」

《編集者注:「誰かに感想文を」と思っている時にまみさんのインターネット上のミクシーに書き込まれた日記を見つけました。本人の許可を得てここにほぼ原形のまま掲載させていただきます。本来、内輪の限定された友人に見せる日記ですので、そのような表現になっています。感想文をお願いしていたら、まみさんは決してこのような表現はしなかったはずです。

さあ、まみさんの日記を覗いて見てください。》

年末に書くとか言っておきながら…

1週間ほど経ってしまい…

今さら… って感じになったけど、あたしの思い出に残しときたいから書くよっ

今まで経験したことがないようなことがやってみたくて参加
とりあえず申し込んだは良いけども…
申し込んでから、一人で申し込んだことに不安になり…
不安だらけで行ったけど…

なんとかあった

てゆか、めっちゃ良い経験出来た

しかも、思い出もたっくん

行って良かったあ

★12月25日★

・集合 ・オリエンテーション ・自己紹介

・温泉 ・自由時間

高崎駅集合。

まさかの1時間前に到着しーの、どこにいれば良いかわからずオロオロ…

ほぼみんな集まって泊まるとこ行って軽く自己紹介したら、いきなり温泉

フツーじゃあり得ないよなあって…

んで、泊まるとこ戻ってご飯食べたらもう自由時間

みんな仲良くなるの早かった

あたし人見知り激しいし、こーゆーの苦手だからどうなるかと思ってたけど…

無事仲間入り

みんないい人すぎた

で…

シラフなのに罰ゲーム大会

日本人じゃ絶対にあり得ないことに戸惑いまくったけど…
かなり大変だったけど…

今となっては良い思い出

で、なんだかんだ夜中まで盛り上がりーの、みんなで雑魚寝…(-.-)Zzz

★12月26日★

・まなばるの子供たちと交流

・日大商学部の人たちのダンス ・温泉

・サンタさんとのじゃんけん大会 ・自由時間

子供の慣れの早さに驚き…

子供ってすごいなあ… って感心した

日大商学部の人たちのダンスもかっこ良かった
なんといっても、2日目はじゃんけん大会がすごく盛り上がったねえ

先生サンタとプレゼントを掛けて大じゃんけん大会

みんな真剣ッ

あんまし勝てなかったけど、すっごい楽しかったあ

で、また夜中まで語りー

喋り続けて、うちら寝たの4時半…笑

★12月27日★

・片付け ・お餅つき ・ホームステイ

つきたてのお餅めっちゃ美味しかった
で、日向ぼっこしつつ迎えに来てくださるのを待ち…

ホームステイ

日本人なのに、がっつり楽しんじゃった
書初め見て懐かしくなったり、

手打ちラーメン食べたりもしちゃった

で、この日は疲れが溜まってしまっていて、早めに就寝…

★12月28日★

まさかの寝坊

本当に申し訳なかった

で、美味しい朝ごはんをいただいて、

マドレーヌ作って、

直売所行って精米とか見させてもらって、

しゃぶしゃぶして、

写真撮ってくださいって、

本当に短期間だったけど、すっごい親切にもらったし、

本当の家族みたいだった

で、みんな再集合して、お別れのお茶会

こんなに短期間で、

こんなにいっぱい思い出が出来るなんて思わなかった

こんなに仲間が増えるなんて思ってもなかった

別れるのがこんなに寂しくなるなんて考えてもなかった…

最後、泣き出したら涙とまんなかった

思ってること全部を言葉になんてできないけど…

みんなありがとう

本当にありがとう

最初一人でも参加して良かった

終わるときには一人なんかじゃなかった

育った国が違うから、環境なんて全くちがうハズなのに、

みんながそれぞれの個性を受け入れてたって…

みんなと一緒にいたときは感じなかったけど…

実はすっごいことだったんだね

すっごい素敵なことだったんだね

みんなと過ごした4日間は、あたしの宝物デス



何日目かな？

その1 2002年の多文化交流—その後

〈陳秋賢からのメール〉

「大学専門を日本語に決めたのは、母親なんで、最初五十音を覚えるにも、結構難しかった。二年生の夏休み、2002年と思いますが、日本へ行くことができて、初めて、この国を自分の目で確認できた（笑）。日本文化、日本人などを紹介した、中国語の出版物は結構あるが、それだけでは、納得できないだろう。

大学の郭先生と日本の太田先生をはじめ、組織者の皆様のおかげで、思い出いっぱい残る旅ができた。

おいしい料理、美しい景色のほか、もちろん、私にとって、もっとも感動したのは泊まらせていただいた家の人たち、そこで生活した一週間。報告してないかもしれないが、その旅を文章にして、全国日本語作文大会（2003年）の決勝まで入り、中国洛陽で行った決勝戦では二位をとった。

ホームステイで勉強したことは、環境にやさしいこと（ラベンダ公園への見物、とても美しい自然）、人間関係を大事にすること（それは今も文通しているとわかるだろう）、ボランティアをすること（大きい兄さんは団地の消防員をやっていること）。あのころ日本語はぜんぜん下手なんで、ママが言ってくれたかったのはそれだとわかってる。そのほか、体験したのは、人への思いやりだ。お姉さんが犬を止める為、怪我をしたまでは大変すまなかった。

つまり、平和でバランスの取れること。近年、中国の経済も発達していて、競争も極端しい。だが、やはり、仕事、生活をバランスよく、進行していこうと思う。まだ家族の皆さんがそれぞれ趣味を持つこと、ママはバレーボール、ちい兄さんはテニス、お姉さんはベースボール、大きい兄さんはボーリング、それで、私も今テニスクラブに入って、スポーツをやりながらも、仕事も勉強とまったく違った分野の人と付き合うことができた。

ということで、日本への旅、特にホームステイは、性格や生活に大きな影響をあたってくれた。それも、このたびをたつ当時、ぜんぜん思いつかなかったことなんだ。」

〈福田則行からの返信〉

「書物やテレビによる先入観。自分の目でみると変わるよね。

ちい兄も、日本人なのに、日本に対しても誤解したり、決めつけて見てるものがある。自分の目で確かめる事は大切だね。ちい兄は、中国の人が来たら、カンフーか太極拳を教えてもらおうと思ってた。ジャッキー・チェンか少林寺のイメージしかなかったから。あとね、もっと仏教的な人達かと思ってた。着るものも、赤い色が多い人達。

別れの時、日頃自分達の支配されてる、生活の時間に帰る実感と、次の再会の想像ができなかった時、なんともいえない哀しみを感じました。人は国境を超えて、信じあい、わかりあえる。何かあったら、みんなで救援してやらなくちゃ！と、いつも意識するようになった。

おじいさん、おばあさんになっても、共通の話題や目標に向かいながら、新しい仲間達とともに盛り上がりつづけたいですね。」

2002年に始まった多文化交流のやり取りを、北京と携帯で行ってます。

鯉が年に一度滝を登り竜になる。だったでしょうか？こんなささいな会話の中に、面白いことがわかりました。河川にいる日本の鯉は、おおきくなってまるっこい(←だじゃれじゃありません)。中国の鯉は、長く大きくなることを、釣りのおじいさんに教えられました。

中国産の鯉をみたら、鯉が龍になりそうな雰囲気があるのです。

高校生くらいまでは、英語が上手ではないコンプレックスもあり、伝えようと努力すること、検索することに疲れを感じていましたが、各国との違和感に、興味津々です。皆さんの交流談話も是非聞いてみたいので、是非、お聞かせ下さい。（福田）

その2 「多文化交流 in ぐんま 2010」

仕事の合間の20時頃にお誘いをうけて、ホストファミリーのお宅に約40分だけ御顔だしをさせてもらいました。ミャンマー出身の学生さんのお名前を、日本勢が発音できない為、名前がレモンちゃんになってしまっていました！！

みなさんの話が楽しいのなんのって、話題のつきないこの楽しさは現場だけの特権ですね。

レモンちゃん、学校でテニスしてるそうで……。私たちは11年前に、お坊さんをお願いして、群馬から中古のラケットをミャンマーに送った事があるのです。ずいぶん前の事とはいえ、結果として間接的であれ、繋がっている事実遭遇して、感動しました！

彼女の話に戻りますが、初めて飛行機、はじめて飛行機乗り継ぎ、はじめて日本、そして3カ月……。みんな「え～～～！！」という感じでした。

そして、なにげないレモンちゃんの家話や将来の話になって、ホストファミリーのお父さんが一言、「レモンちゃんは、今日からうちの娘なんだから、日本のうちにたよってきていいんだよ」という自然すぎる言葉に、じんときてわたくしが泣いちゃいそうでした。

一人の若者のチャレンジが、人を呼び、その人達が呼応する連鎖。

日本人が、日本人を意識する事ではじまるドラマの主演は、このプログラムの参加者全員。スタッフは下準備からして大変と一言ではすみませんが、この成果は、人の命ある限り永遠に続くものなのでしょうね。

日本人への影響が、1泊では少なすぎるのではないかという不安も、取り越し苦労でありました。この大きな誤算は、当然最大の喜びでもありました。同じチームメイトである日本のみなさん、老若男女、楽しく変わるチャンスはいつでもありますよ！

さてさて、明日以降の反応が、どんなふうになるのか楽しみです（笑）

福田則行日記（初出：ミクシー 2010. 12. 27. 23時04分）

Manapar まなぱる 12月の思い出

◇12月某日◇ クリスマス発表会に向けて、まなぱるキッズの猛特訓が開始されました！発表予定なのは各クラス「英語クリスマスソング2曲ずつ」、しかも本番は市内最大の開場「安中市文化センターホール」！だがしかし！練習ができるのは週にたったの一回！大丈夫なのか、まなぱるキッズ！？



そんな先生たちの心配をよそに、毎週のレッスンはもちろんのこと、自宅練習、居残りスピーチ練習、極秘ダンスレッスン、そしてハンドベル部隊の特別練習などを重ね、着々と仕上げていったキッズたち☆

◇12月23日◇ さあ、ついに本番です！120名のキッズが文化センターホールに集結！ほんと〜にほんと〜に、未就学、低学年、高学年、どのクラスも素晴らしいステージでした♪



ステージ中央の直径3メートル巨大リースはまなぱるお手製♪本番4日前に、社会人生徒さんや0期生たちの協力で完成しました！

歌のみならず、6年生たちを中心にスピーチ、ハンドベル、ダンスと、全て大成功☆みんな良く頑張った！！はじめて使う大ホールにたじたじだったのは、裏方&進行役の太田先生とJUN先生だけでした(笑)見にこれなかった皆さん！次のクリスマスは絶対に来て下さいね！

いろいろな
サンタさんが
登場しましたよ♪

さあ、本物は
どれでしょう！
あれ？所長！？



当日は裏方や撮影班として、まなぱる個別の社会人や高校生の生徒たち、そしていつも支えてくれている0期生たちが助けてくれました。ありがとう♪そしてまた、応援してくれていた研究所会員の皆様、このイベントに賛同してくれたまなぱるキッズ保護者の皆様に、心より感謝致します！

2011年も、まなぱるを応援して下さい♪

ご質問・ご意見等、お気軽にご連絡下さい。
連絡先：027-386-8499 / 080-6612-9636 (まなぱる)

国際比較文化研究所の新たな時代始まる

NPO法人として国際比較文化研究所がスタートしてから丸十年の歳月が流れました。この期に以前からご案内しておりました太田敬雄の「心に響く異文化概論」に加えて二つの講座を立上げます。一つは大河ドラマにも出演しておられる冷泉公裕の「冷泉塾ーからだと言葉のワークショップ」。もう一つは荒井美幸の「世界を駆け巡った日本語教師が見て聞いて感じた！多文化共生論」です。

大人のための MANAPAL COLLEGE

開講案内・受講者募集

大人のための MANAPAL COLLEGE を、これまで構想を練り続けてきた大学構想のパイロット・プロジェクトとして立ち上げる事にしました。(現段階で単位認定はしません。)

受講資格：高校生以上。 受講経費：1コマ1000円。なお講座によって詳細は異なります。

開講場所：MANAPAL XD …379-0116 安中市安中 2456-2 (旧『珈琲賛歌』) ※安中市国道18号線バイパス沿い、ヤマダ電機の向い。高崎方面からこられますと右側、カラオケ「まねきねこ」の手前の大きな看板が出ています。広い駐車場の奥にある洒落た洋風の二階建てが「まねばるXD」です。元「珈琲賛歌」があったところです。

開講日時：科目ごとに設定されますが、基本的に月一回、土曜日か日曜日の午後です。

講義時間：科目により異なりますが、一回90分から180分です。

受講申込：受講希望者は下記あて受講を申し込んで下さい。受講料は講義当日に申し受けます。なお、受講希望者が少ない場合は開講をしないこともあり得ますので、必ずお申込み下さい。

申込先：メール mtharunac@xp.wind.jp ファックス 027-382-6393

葉書 379-0124 安中市鷲宮3413-3 国際比較文化研究所

受講希望科目名とお名前、性別・年齢 ご住所、連絡先をお知らせください。

科 目 案 内

太田敬雄の「心に響く異文化概論」 開講日時：毎月第二土曜日午後2時～3時半 前期：3月12日～7月9日まで5回

お茶・珈琲でも飲みながらゆっくりと異なる文化の理解と受容について学び合いましょう。

■受講料 大人1回1000円、大学生500円、高校生 無料

■講師略歴 1942年生まれ。現在安中市在住。アメリカ留学後アメリカの公立高校数学教師から始まり、日本の私立の高校、国立・私立の大学・短期大学で主に英語と比較文化を担当してきた。「教えるのではなく、学ばせる」をモットーに、44年の教員生活。現在も3大学で非常勤講師を勤める。

日本比較文化学会名誉会長。元日本放送芸術学会会長。2010度より安中市男女共同参画委員会委員長。フルブライト上級研究員(1981-2)。

冷泉公裕の「冷泉塾ーからだと言葉のワークショップⅠ」

開講日時：毎月第3日曜日午後1時～4時
4月17日、5月15日、6月19日

受講料 1回1,000円

声を出すことは単に声帯で出すのではなく、からだ全体を使って出すのだと冷泉氏は言います。からだをほぐし、声を出し…それが詩の朗読につながるのか、芝居につながるのか。お楽しみに。

■講師略歴 東京生まれ。1996年、29年間在籍した劇団文芸座を退団。フリーで舞台、TV、映画に出演するかたわら、演出、アクティングコーチも手掛けている。俳優業のかたわら、「冷泉風ライブ」と称する歌のコンサートを続けている。昨年秋セカンドCDを発表。2004年に安中市内に小さな「分教場」のような週末ハウスを建て、現在は東京と安中の二つの暮らしを楽しんでいる。FGM所属。

荒井美幸の「世界を駆け巡った日本語教師が見て聞いて感じた！」

開講日時：毎月第1土曜日午後2時～3時半

3月6日(この日だけ日曜日)、5月7日、6月14日、7月2日

キーワードは「教育の力」、と荒井氏は言う。ブラジル、インドネシア、コスタリカ、セルビアで日本語を教えてきた経験で肌に感じた多文化共生をもとに参加者と共に語り合います。

■受講料 大人1回1000円、大学生500円、高校生無料

■講師略歴 群馬県立太田女子高校から新島学園女子短大を経て、放送大学、高知大学大学院に学ぶ。日本語教師としてブラジル、インドネシア、コスタリカ、セルビアで日本語教師。

日本でも大泉町立大泉西小学校、国立香川大学、MANABI外語学院(長野県)等で教える。4月から同志社大学の留学生のための日本語非常勤講師となる。

国際比較文化研究所では2002年の外務省2002年日中韓国民交流年記念事業「多文化交流 in ぐんま2002」のコーディネーターを務める。インドネシア時代には教科書「文部省留学試験対策問題集 文法・語彙編」を、またコスタリカでは大学共用日本語教科書の共同執筆者となるなど、日本語教育の分野で活躍を続けている。

冷泉風ライブ in 安中

皆様、お待たせしました！ 安中での久々の「冷泉風ライブ」実施決定です！

日時：2011年3月20日 (第1回) 午後3時、(第2回) 午後7時 開演
毎回40名限定。 予約者から入場していただきます。

入場料：3,000円(当日・予約共) 中学生・高校生 1,000円

出演：歌とトーク
冷泉公裕

東京生まれ。1996年、29年間に在籍した劇団文学座を退団。フリーで舞台、TV、映画に出演。演出。アクティングコーチも手掛けている。俳優業のかたわら“冷泉風ライブ”と称する歌のコンサートを続けている。2004年、安中市に週末ハウスを建て、東京と群馬の二つの暮らしを楽しんでいる。安中では二度目のライブとなる。

ギター
古橋一晃

アコースティックギター。1992年地元京都の老舗カントリーバンドに参加。日米カントリー系ミュージシャンとのセッションを多数経験。2005年上京。現在、冷泉公裕、四角佳子(六間銭)、マイク真木、松田“ari”幸一(ハーモニカ)、中川イサト Bandなどのギタリストとして活躍中。

会場：MANAPAL XD …379-0116 安中市安中2456-2(旧『珈琲賛歌』) ※安中市国道18号線バイパス沿い、ヤマダ電機の向い。高崎方面からこられますと右側、カラオケ「まねきねこ」手前の大きな看板が出ています。広い駐車場の奥にある洋風の二階建てが「まなばるXD」。元「珈琲賛歌」があったところです。

問合せ先・チケット注文先：027-382-2117(太田)、メール：mtharunac@xp.wind.jp
ファックスで：027-382-6393

☆会費納入とご寄付のお願い☆

大勢の皆様のご協力によって今年度も研究所らしい活動を続け、この度大きく発展すべく計画して参りました。「相互理解に基づいた、より豊かで平和な地球を創るために」これからも一步一步、試行錯誤しながらも進んで参りたいと決意を新たにさせられた11年目もあとわずかになりました。

研究所の多くの活動に参加出来ない会員にとっては、ニューズレター発行を除けば、会費は活動を支える寄付の様相を呈しています。それにもかかわらず大勢の会員に支え続けていただいていることに心から感謝しております。これからも変わらず研究所の活動をお支え下さい。

年会費は個人が2000円です。研究所の活動のためにご協力をお願いします。今年度の会費未納の方にはその旨を記した振込用紙を、すでにお振り込み下さった方にはご寄付下さる方のために振込用紙を同封させていただきますが、決してご寄付を強要するものではありません。

「まなばる」の活動、「まなばる XD」もスタートして1年半ほどでマナパルに通う子どもたちは120名を越えるまでになりました。「まなばる」は、参加者からは大いに喜ばれていますが、本当の「勝負」は二年目ではないかと思えます。すでに来年度の参加者募集を始めています、多目的教育施設「まなばる」をご支援下さいますようお願いいたします。

インドネシア人学生招聘事業「多文化交流 in 関東」も継続します。このプログラムの実施は全面的に皆様のご寄付に依存しております。日本語を積極的に学び、日本訪問を夢としてはいても、私費での来日は難しいインドネシアの若者達のために今年度も宜しく申し上げます。

◇**会員倍増計画**◇ 新しい会員をお誘いください。入会に条件はありません。国際比較文化研究所の活動に賛同し、ご協力下さる方はどなたでも大歓迎です。これからの世界平和実現を願いつつ多様な教育・文化活動をつづける研究所を理解していただき、支えて下さる方の一人でも多くがご参加くださるようお願いいたします。

会費・寄付(2010. 11. 26. ~2011. 2. 5.)

<敬称略>

<入会>岩丸愛、イースター式典社、Wirasti Angreni、女屋歩美、角田敏太郎、岸綾夏、倉益佑輔、木村暢、佐藤秀男、藤平久代、只野優司、中村亮太、長谷川勝彦、羽田敬宏、藤山涼、堀口将太郎、前田武男、舟木輝、盛永隆介、山田杏奈、山本真未、吉田航太、上原香菜子、中川由子、塚越千尋、芦澤美咲、今泉依里子、榛葉美紀、小林誉華。なお、昨年夏の多文化交流 in 釜山以来、多文化交流等の参加者には会員となって頂く事にし参加費をもって会費の扱いとした。その後のニューズレター報告などを届けるためである。ご了解いただきたい。

<会費>皆様の変わらないサポートのおかげを持ちまして活動を徐々に広げていく事が出来ております。有難うございます。新しい展開にご期待下さい。 **カイラン・ミックメーヒル、関根君子、多田明美、本島靖子、河村十朱子、佐藤秀男、角田敏太郎、前田武男、森泉英司、長谷川勝義、イースター式典社、太田敬雄、田中福姫、前田浩、藤平久代、奥田聖幸、ウィラスティ・アンレニ**（11分）。

<「インドネシアより招聘」「多文化交流 in 関東」指定寄付>村井田和夫、森泉英司、前田浩。御協力有難うございます。今年度も是非インドネシアからの招聘プログラムは継続して参ります。まだ日程も決まっては居りませんが次回の「多文化交流 in 関東」の実施に皆様のご協力をお願いします。

<マナパル 指定寄付>村井田和夫、森泉英司、関根君子、吉田美貴。マナパルがさらなる飛躍を準備しておりますなか、心強いお支えに感謝します。多目的教育活動の支えとして有効に活用させていただきます。

<一般寄付>内田穂瑞、黒田絢、藤平久代、角田敏太郎、村井田和夫、高山有紀、太田敬雄。有難うございます。必要とされる所も多くなってきました。有効に使わせて頂きます。

編集後記： ◇今年度はこの号で5回目のニューズレター発行となった。

◇先の号のニューズレターに間に合わなかったが、マナパルのクリスマスが、12月23日に大盛況の内に安中市文化センターの大ホールで開催された。群馬テレビのニュースで、また上毛新聞で取り上げて頂く事が出来た。子ども達の英語の歌の発表など盛りだくさんの楽しい集いとなった。

◇「多文化交流 in ぐんま」の報告を参加者の一人、山本真未さんの mixi 日記と、同じく福田則行氏の日記を転載させてもらった。通常の記事とはスタイルも異なるが、生き生きとした報告となったと思う。特に山本さんの日記は絵文字をフル活用しているので、慣れない方には少々読み辛かったかもしれない。ご勘弁いただきたい。

◇加瀬谷恵さんの「ショート超ショート」原稿も頂いていたが紙面の関係で次号に回さざるを得なかったのが残念である。次回に「うう、ご期待」

◇インフルエンザが流行っているとか。皆様、ご用心を。(T)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮3 4 1 3-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所